

# 登校再開に向けて

～「子どもたちの日常を取り戻す」プロジェクトが始まりました～

## ～保護者の皆様へ～

この度、医療専門職と教育専門職ががっちり手を組み、最新の医学的データに基づいて議論を進め、子どもたちの日常を取り戻すためのプロジェクト「富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議」を立ち上げました。

太陽のもと、マスクを付けずに元気な声と満面の笑顔で遊ぶ子どもたちの姿を、また見たいと思っています。そしてそれは決して不可能なことではありません。感染の危険度合いを見極めながら可能なことを増やしていけば、取り戻せる日常はたくさんあると考えています。

これまでは危険を最大限回避するため、子どもたちには多くの制限を強いてきました。しかし、様々な医学的データは、「新型コロナウイルスは、子どもにとっては感染してもほぼリスクのない風邪ウイルスである」と示していますので、できる限り制限のない生活を送れるよう早急に議論を進め、モニタリングをし、安全を評価して、制限を解除する方向に進めなくてはなりません。

もし、その過程で感染者が発生したとしても、富山県内小児医療機関が一つになって情報を共有し、お子様を守るための体制を整えており、今もその準備は怠ることなく進めています。

明るい未来を信じて、医療・教育そして保護者の皆様と、共に新たな一歩を踏み出し、子どもたちの日常を取り戻していきたいと思えます。

### 富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策会議

座長 富山大学小児科講師

種市 尋宙

副座長 富山市医師会理事、富山市学校保健会理事

八木 信一



【委員】高崎 麻美(富山大学小児科助教)、橋本郁夫(富山市保健所参事、医師)、  
武島 浩(小学校長会会長)、水上 豊(中学校長会会長)、島谷志のぶ(園長会会長)  
富山市教育委員会(事務局次長 大久保 秀俊、学校教育課長 國香真紀子)



## 皆様の疑問や不安にお答えします

### Q1. 子どもが新型コロナウイルス感染症にかかると、どのような症状がでますか？

#### 子どもの新型コロナウイルス感染症の症状と特徴

##### ☆発熱

約半数が37.5℃以下の微熱程度  
39℃以上の高熱が出るのは10%程度



##### ☆気道症状

・咳は約半数に認められる主要症状  
・鼻汁が目立つ症例は10～20%程度の患者のみ



##### ☆消化器症状

・下痢、嘔吐、腹痛は、それぞれ10%程度の患者のみ



##### ☆その他

・のどの痛みや頭痛は、5～25%と報告によって幅がある。皮膚症状はごくわずか



子どもは、大人に比べると発症しても症状は軽く、死亡例もほとんどありません。

これまで報告された例も、家族内感染がほとんどで、無症状のお子さんが多いです。

そのため、感染したとしても経過観察や対症療法で十分であるとされています。

しかし、高齢者が感染すると重症化しやすく、死亡率も高いので、社会全体で予防対策を続けていく必要があります。

## Q 2. 学校の感染症対策は万全ですか？

100%の感染対策はなく、病院という場所でも院内感染が起きていることが、その難しさを表しています。しかし、過剰な対応は逆効果になることもあり、学校では有効性の確立している感染症対策を忠実に行うことが重要になります。

学校では、①健康観察の徹底 ②マスクの着用 ③石けんでの手洗い励行 ④換気 ⑤よく手が触れる場所の消毒等衛生管理を行っています。手指のアルコール消毒等は、必須ではありません。

新型コロナウイルス感染症は、飛沫(咳やくしゃみ)を吸い込むことで、感染が広がります。飛沫は1m前後で落下しますし、様々なところに付着したウイルスも長くて数日程度しか生存できないことが分かっています。

遊具や共用の物を使った後は、手洗いうる習慣を身に付ければ、過敏になる必要はありません。



## Q 3. 感染のリスクはゼロではないのに、なぜ学校を再開するのですか？

新型コロナウイルス感染症の特徴が分かってきており、感染者数も落ち着いてきたことから、子どもたちの安全が見込まれる状況となりました。一方、長期の学校閉鎖による子どもたちへの健康被害も多く懸念されています。具体的には、「学習の遅れ」「家庭内事故の増加」「インターネット、SNS機会の増加による弊害」「社会不安に対する心理的動揺」などがあげられます。子どもたちへの脅威は、ウイルス感染だけではありません。

これらのことから総合的に判断し、段階的に学校を再開しています。

## Q 4. 子どもだけで遊んでいると、マスクを外してしまったり、密着したりするのはないかと不安です。大丈夫でしょうか？

子どもですので、ある程度そのようなことが起こることも想定しています。小学校や中学校でのクラスターは、世界的にも報告されていません。ただし、子ども同士で感染しないわけではないのですが、感染が拡がりにくいと考えられています。

Q1でお答えしたように、新型コロナウイルス感染症は、子どもがかかっても症状は軽く、感染を恐れすぎるあまり、子どもたちの成長や学習の機会を失わないよう、「感染症予防」と「子どもの成長」のバランスを見ながら、対応を考えていきます。

## Q 5. 発熱した場合の対応など、家庭で注意すべきことはありますか？

毎日登校前には必ず体温を測ってください。小さなお子さんは、言葉で上手に説明できないことも多いので、いつもの元気があるか、食欲はあるかなど、健康状態を注意深く見守ってください。

体調がすぐれない場合は、無理をせず家庭でゆっくり休養し、かかりつけ医を受診してください。発熱がみられた場合は、熱が下がってから24時間おいて登校させるのが一つの目安です。

QRコードで読み取っていただくと、詳しいプレゼンテーション資料  
「子どもたちにとっての新型コロナウイルス感染症」をお読みいただけます。  
<http://www.tump.jp/office/exam/COVID-19.pdf>



このリーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。また、Q&Aは順次追加する予定です。

【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)